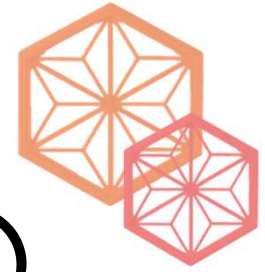


「大川の駅」整備事業

(「道の駅」と「川の駅」の整備)



概要資料



大川市 企画課

大川の駅推進室



1. サウンディングの目的



- 大川市を含む環有明海地域や筑後川流域は、豊かな自然に育まれ、様々な魅力あふれる「**ものづくり**」とともに発展してきました。



- 大川市では、この地域をつなぐ「**有明海沿岸道路**」、「**三池港**」、「**九州佐賀国際空港**」の陸海空のインフラが整いつつある今、関係自治体との連携を強化し、「大川の駅」を核とした「**環有明海経済圏域の構築**」を目指しています。



「大川の駅」の事業内容について、**ご意見・ご要望等**を伺い、民間事業者が有する**柔軟なアイデア**を取り入れたいと考えています。



大川市は、民間事業者の力を借りてこの事業を実現させたいと考えています



2.大川市の概要



- 筑後平野の中央に位置し、
筑後川が市の西部を流れ、
有明海に注いでいます。

- ・人口 32,487人(R4.9.30)
- ・高齢化率 36.3%
- ・面積 33.62 k m²

- 主要産業

- ・「**大川家具**」「**建具**」などの木工業
- ・「**いちご**」「**海苔**」などの農水産業



大川家具



組子ランプシェード



あまおう



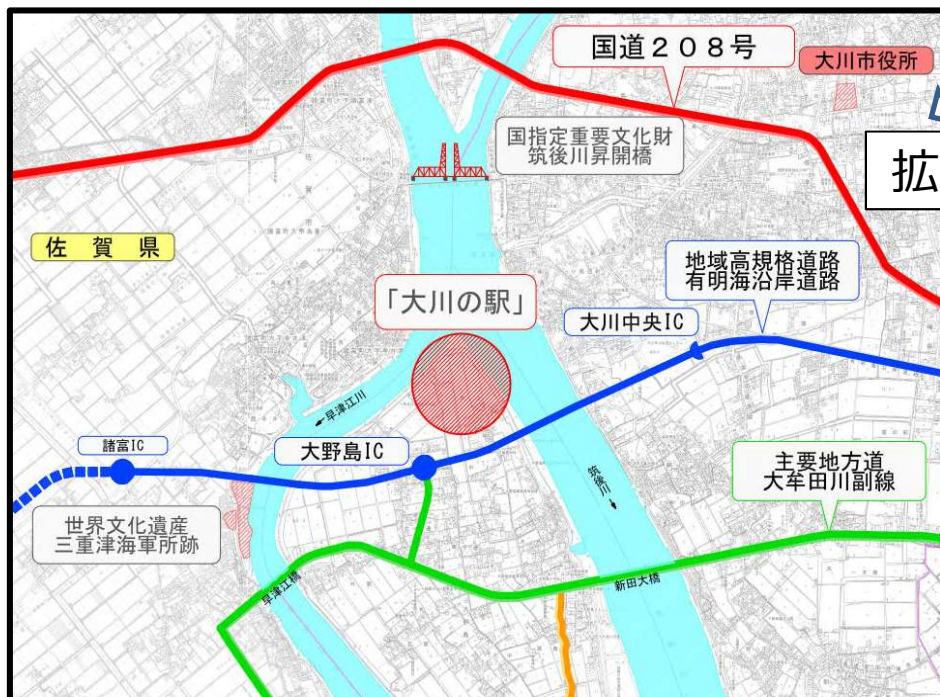
大川産の「福岡有明のり」



3.「大川の駅」の位置

● 整備予定地の立地特性

- ・大野島ICより北へ約500m
- ・有明海沿岸道路計画延長約55 kmの**中間地点**に位置
- ・筑後川の雄大な景観やダイナミックな**干満差**など、この地域特有のユニークな自然資源



拡大図

- ・周辺には、国指定重要文化財「**筑後川昇開橋**」、土木遺産「**デレーケ導流堤**」、佐賀県側には世界文化遺産**三重津海軍所跡**などの近代日本の文化財も立地しており、景観の良い場所





4.「大川の駅」整備予定地



筑後川昇開橋

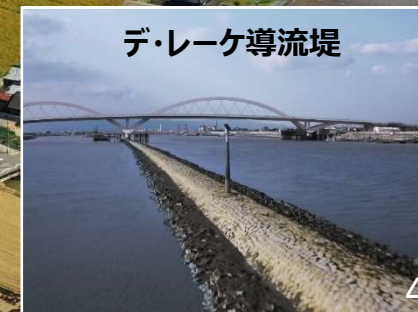


「大川の駅」

アクセス道路(約500m)

大野島IC

デ・レーケ導流堤





5.「大川の駅」の概要



- 「大川の駅」とは、「道の駅」と「川の駅」の機能を併せ持つ、「環有明海地域」の**ものづくり**に視点を当てた広域的な産業・観光振興拠点です。

- さらに、関連施設整備（**民間事業誘致**）を行い一体的に賑わいを創出します。

- 敷地面積

- ・道の駅： 約43,000m²

- ・川の駅： 約6,000m²

- ・関連施設： 約39,000m²

- 利用者数：**年間100万人**
(施設規模の設定)



※図に示す機能はあくまで現段階での想定であり、規模や配置などは今後の検討の中で変更することがあります。



6.「大川の駅」の事業内容



「食」×「ものづくり」×「島」×「水辺」

有明海、筑後川、筑紫平野に囲まれて たのしく、あそび、くつろぐ

「環有明海地域」や筑後川流域の体感型情報発信ステーション

水辺体験機能(川の駅:約6,000㎡)

「水辺」
の魅力を
体感する

- ・展望デッキ
- ・親水空間
- ・船着場
など



写真提供：(公財)東京観光財団

飲食・物販機能：約1,600㎡

地域の
「食」
を味わう

- ・レストラン、カフェ
- ・物産販売所
- ・クラフトショップ
など



出典：こもびカフェ Sweets & Café HP (カフスイ川崎水族館)

交流機能：約15,200㎡

「島」
の環境を
楽しむ

- ・イベント広場
- ・子どもの遊び場
- ・サイクルステーション
- ・キャンプ場 など



出典：星と森のロマンビアHP

ものづくり振興機能：約1,000㎡

「ものづく
り」の良さ
を感じる

- ・ものづくりエンジェルジュ
- ・D I Yスペース
- ・ものづくり体験教室
など



写真提供：DMM.make AKIBA

道の駅の基本機能（休憩、情報発信、防災）：約17,200㎡

- ・駐車場、トイレ ・R Vパーク
- ・情報発信スペース ・防災備蓄倉庫、発電施設 など

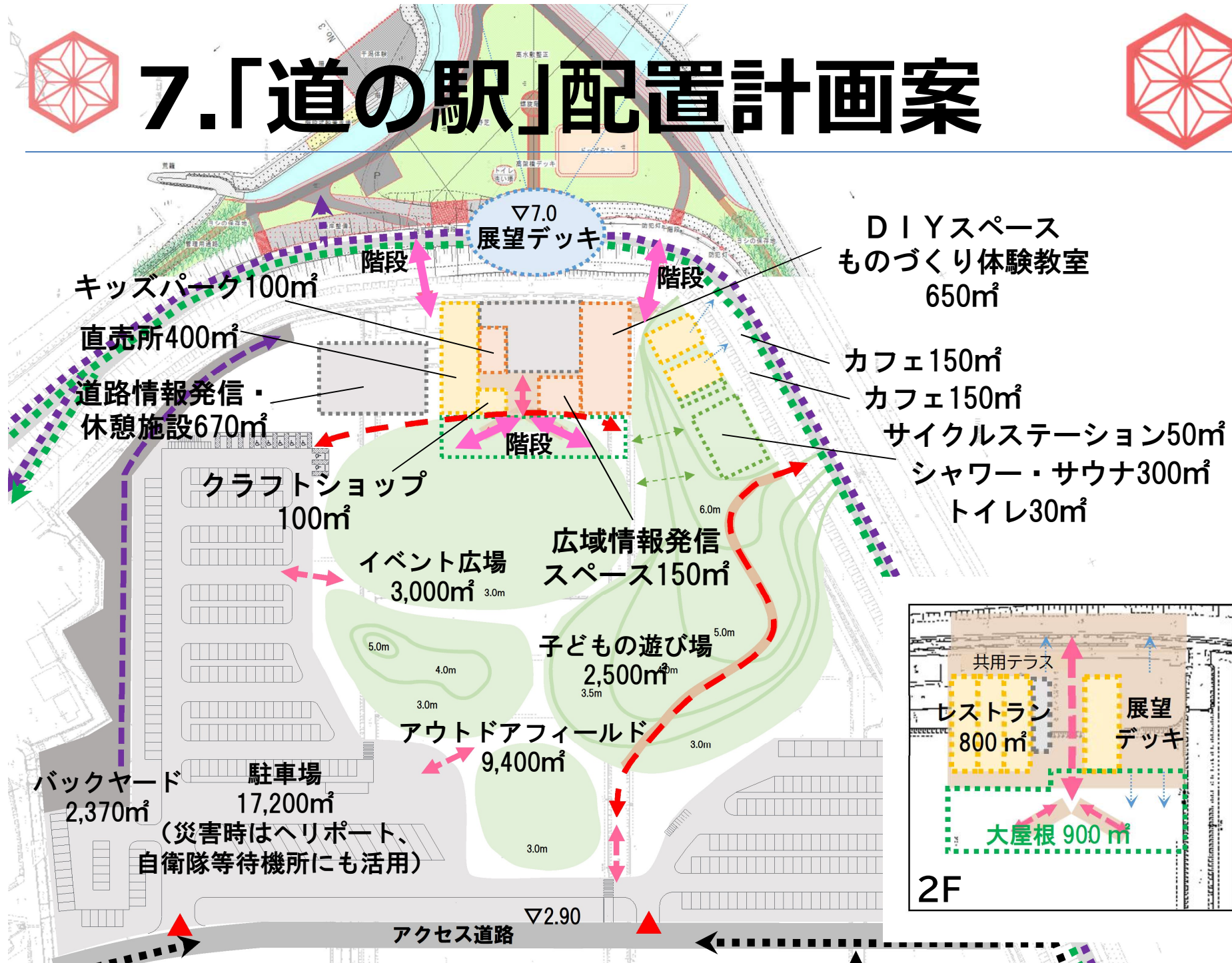
※災害時には、一時避難・受入施設、自衛隊待機場所、ヘリポート等にも活用

出典：道の駅 那須高原友愛の森HP





7.「道の駅」配置計画案

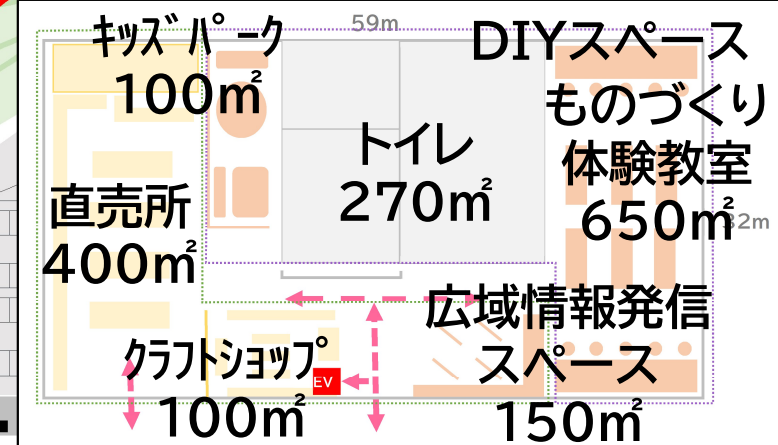
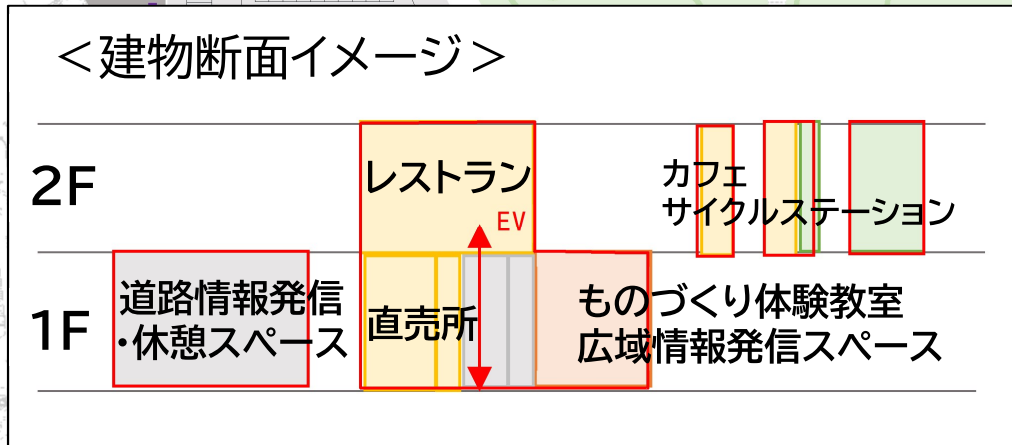
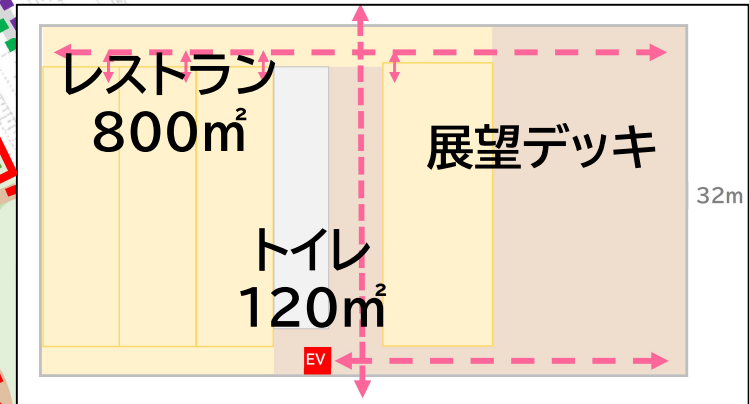
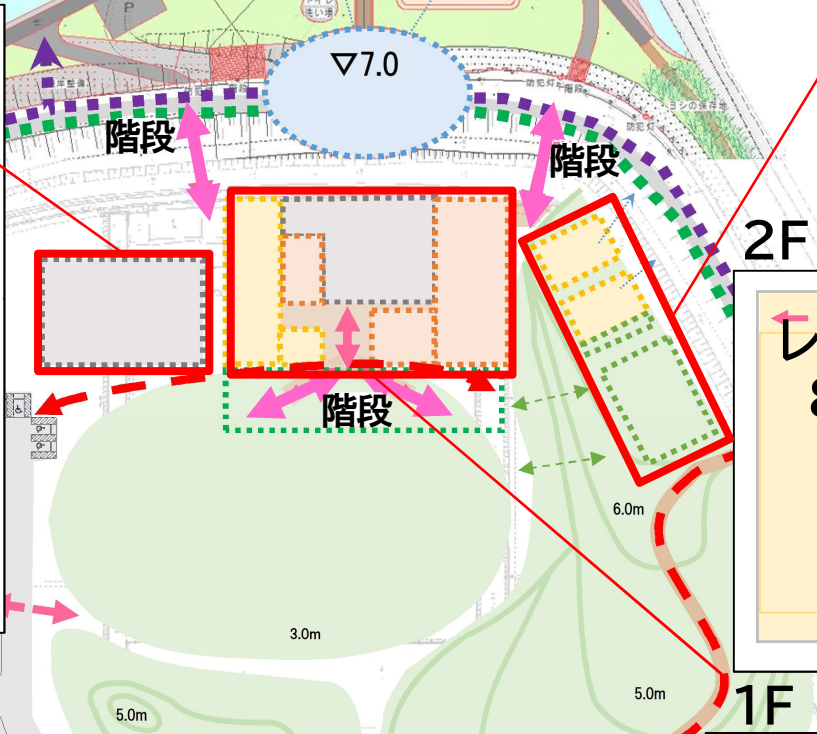




8. 建物平面イメージ



カフェ150㎡×2か所
サイクルステーション50㎡
シャワー・サウナ300㎡
トイレ30㎡





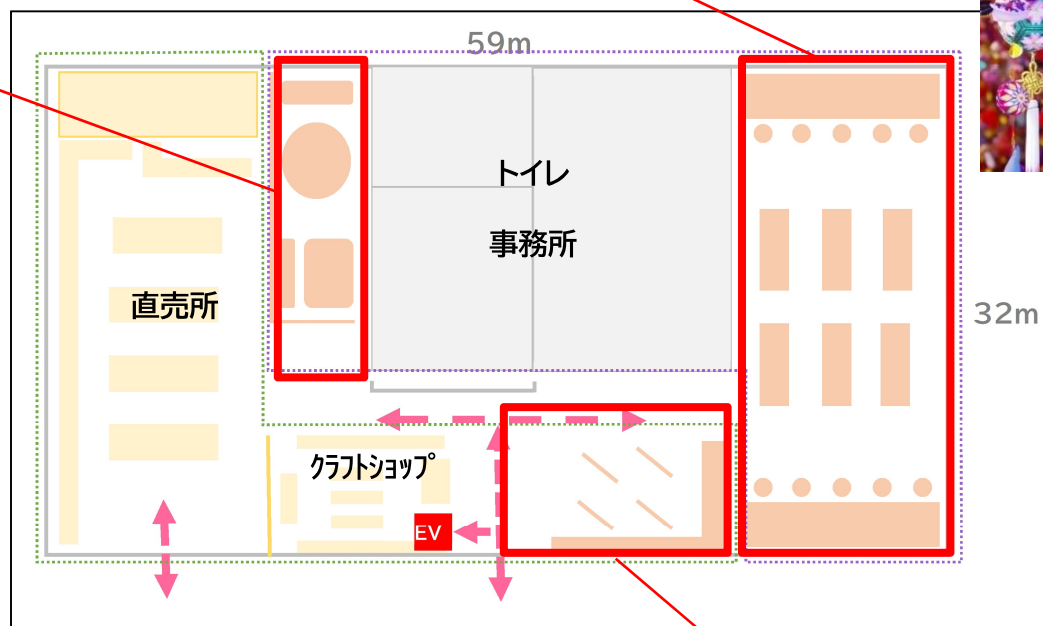
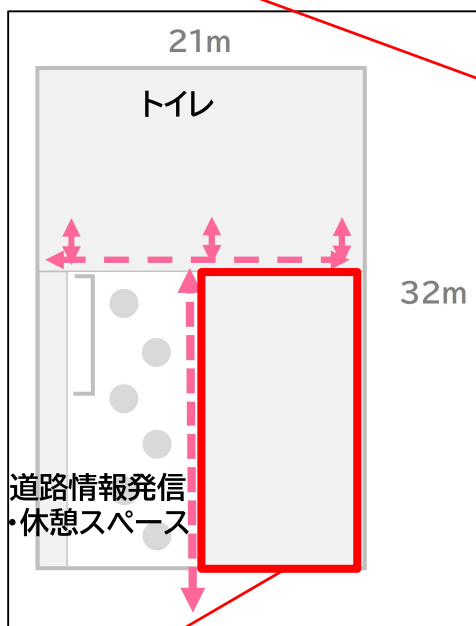
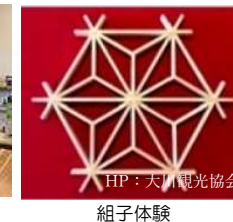
10. 広域的な地域振興拠点機能 (ものづくり振興機能)



キッズパーク
100m²



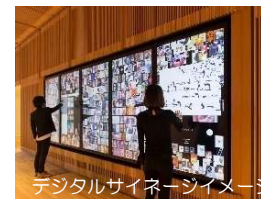
DIYスペース
ものづくり
体験教室
650m²



広域交流
スペース
200m²



ものづくりコンシェルジュ
広域情報発信
スペース
150m²





11.立体イメージ





12.イメージパース (「大川の駅」全体計画)



※イメージパースは、あくまで現段階での想定であり、今後の検討の中で変更することがあります。
※施設のデザインは今後検討します。



13.スケジュール



- ・過年度
 - ・「大川の駅」全体計画策定済み
 - ・「道の駅基本計画」策定済み
 - ・「国交省サウンディング」参加
- ・R 4 年度
 - ・「大川の駅」実施計画策定中
 - ※PPP/PFI導入可能性調査を含む
 - ・「川の駅かわまちづくり計画」策定中
 - ・土地収用法事業認定申請手続き中
- ・R 5 ～ 6 年度 基本・実施設計、用地取得、造成工事
- ・R 7 ～ 9 年度 建設工事、管理・運営事業者の選定

★開業目標＝令和9年度中



【参考】上位関連計画



●大川市第6次総合計画（R2.3策定）

経済

基本目標 1

～価値の「創造」と活力にあふれるまち～

地域経済の活性化のために、新たな価値の創造を支援するなど、産業振興や雇用の確保を図ることで、まちを支える力強い産業の発展と、人が集まり地域が活力にあふれる持続可能なまちを目指します。



(1) 産業の振興と活性化

- ① インテリア産業・商業
- ② 農水産業
- ③ 観光振興・地域交流

(2) 雇用の安定と企業誘致

- ④ 雇用創出・就労支援・企業誘致

(3) 環有明海地域の連携と活性化

- ⑤ 広域的産業・観光振興の連携強化と拠点づくり

社会

基本目標 2

～人を育み、共に支え合い「共生」するまち～

未来を担う子どもたちや産業、地域を担う「人」を育み、子どもから高齢者まで全ての「人」がお互いに認め合い、支え合う社会を形成し、大川市の未来を全ての市民（地域団体・NPO・民間事業者等）と共に考え共生できる、快適で住み続けたいまちを目指します。



(1) 子育て支援・教育の充実

- ⑥ 子育て支援
- ⑦ 学校教育
- ⑧ 社会教育・青少年教育

(2) 健康・保健・福祉の充実

- ⑨ 地域福祉
- ⑩ 高齢者福祉
- ⑪ 障がい者（児）福祉
- ⑫ 健康・保健・医療
- ⑬ 社会保障

(3) 市民生活の充実

- ⑭ 公共交通
- ⑮ 人権・男女共同参画
- ⑯ 生涯学習・文化芸術
- ⑰ 新たな情報技術
- ⑱ 国際交流

(4) 安全安心なまちづくり

- ⑲ 防災
- ⑳ 交通安全
- ㉑ 防犯・消費者保護

環境

基本目標 3

～人と自然に調和した都市空間を「共創」するまち～

市民と行政が一体となって、環境負荷を低減する循環型社会の形成と、生活環境の充実を図ることで快適で潤いのある都市空間を創出し、人と自然に調和したまちを目指します。



(1) 環境保全の推進

- ⑫ 自然環境の保全
- ⑬ 景観・まち並みの保全

(2) 低炭素・循環型社会の形成

- ⑭ ごみの減量化
- ⑮ 食育・地産地消の推進

(3) 生活環境の充実

行政経営

基本目標 4

～持続可能なまちづくり～

大川市が目指す10年後のまちづくりを進めていくために、行財政改革や公共施設の最適化など健全な行政経営により、的確に施策を実施するための土台づくりを行政が行い、SDGsの推進をはじめとして、市民（地域団体・NPO・民間事業者等）と協働して持続可能なまちづくりに取り組みます。



(1) 総合計画・総合戦略の推進

- ⑱ SDGsの理念に基づいた計画推進

(2) 行財政運営

- ⑲ 行財政改革
- ⑳ 公共施設最適化
- ㉑ 連携体制

(3) 市民との協働

「大川の駅」の整備・推進について明記されている。

～整備・推進内容～

- ① 有明海沿岸道路と連携した「道の駅」
- ② 「かわまちづくり支援制度」を活用した水辺空間（「川の駅」）
- ③ ものづくりに視点を当てた「環有明海地域」の広域的地域振興拠点施設の一体的な整備



【参考】上位関連計画



●大川市都市計画マスタープラン (H29.7策定)

大野島地域の地域別構想において、道の駅・川の駅構想等が明記されている。

～右記図の記載内容（一部抜粋）～

- ・道の駅・川の駅構想
- ・大野島北端における眺望の確保
(連続する河川景観の形成)
- ・筑後川の堤防から眺望できる風景や、地形を
生かした散歩道の整備を検討。





【参考】上位関連計画



● 筑後川流域景観計画（H22.10策定）

- 対象地は「水郷の景域」に位置付けられており、特別基準である「河川景観保全ゾーン」、「沿岸景観保全ゾーン」に属している。
- 屋根の形状の工夫による連続する河川景観の形成や、屋上の設備・工作物等の目隠し処理、また、道路からの見え方や通りとしての連続性に留意すること等が明記されている。

https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/ife/614860_61095394_misc.pdf

● 水郷の景域

● 水辺環境の保全を行うとともに、今ある水郷景観への影響を最小限に抑えるよう配慮を求め、中低層建築物と田園、水辺が調和した美しく穏やかな水郷景観の保全に向けた配慮を求める。

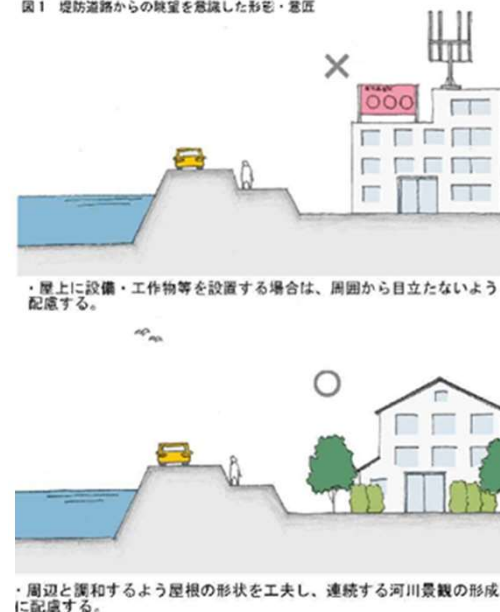
● 【特別基準】河川景観保全ゾーン

- 区域：筑後川および宝満川沿いの両岸から200mの範囲（大川市・小郡市・大刀洗町）



河川景観保全ゾーン		景観形成基準	
建築物・工作物	形態・意匠	連続性への配慮	□堤防等から俯瞰されることを踏まえ、周辺と調和するよう屋根の形状を工夫し、連続する河川景観の形成に配慮する。・・・図1
	設備類		□屋上に設備・工作物等を設置する場合には、周囲から目立たないよう配慮し、必要に応じて目隠し等の処理を行う。・・・図1
開発行為・土地の形質の変更等	周辺環境		□十分に事前調査を行い、動植物の生息環境等の水辺環境に配慮する。
	土石類の採取		□土石類の採取により、道路等の公共空間から見て地肌があらわにならないものとする。
	物件の堆積		□資材などを堆積させない。やむを得ず堆積する場合は、周囲を生け垣等の目隠しによる修景を行う。

図1 堤防道路からの眺望を意識した形態・意匠





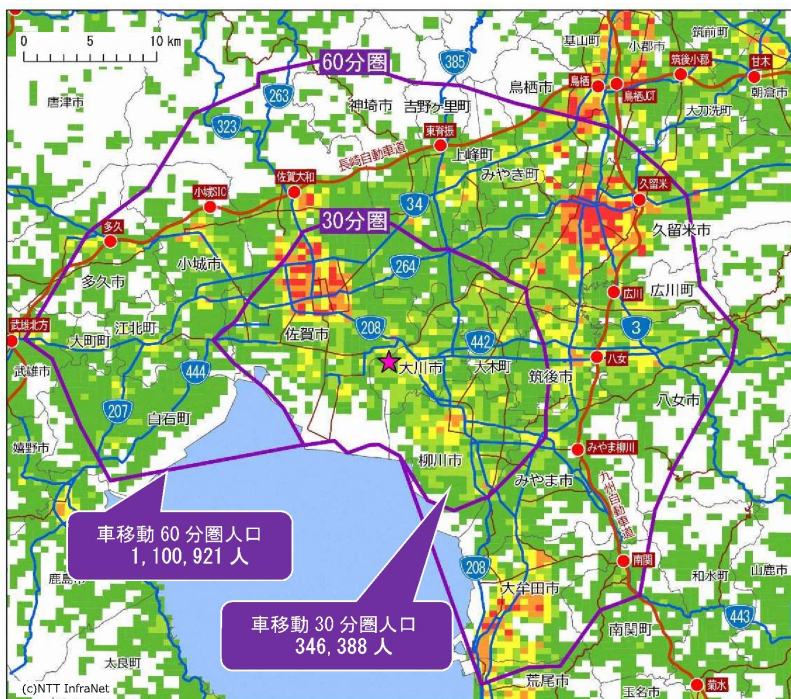
【参考】立地状況

※この内容は、「大川の駅」全体計画3ページに記載しています。



●車移動にかかる時間

- ・「大川の駅」の立地を予定している大野島は、車移動の30分圏域に佐賀都市圏が、60分圏域に久留米都市圏が位置しているなど、大規模都市圏とすることが可能な立地です。
- ・九州佐賀国際空港まで車移動で約20分であり、東京などの関東圏や東アジアからの誘客も行いやすくなっています。
- ・有明海沿岸道路の整備が予定されていることから、有明海沿岸に位置する市町との往来が期待されます。



車移動圏人口



出典:平成27年国勢調査、国土数値情報「R2行政区域データ」「H30高速道路時系列データ」
<https://nlftp.milt.go.jp/index.html>、
 jSTAT MAP(<https://www.e-stat.go.jp/>)、
 (c)NTT InfraNet

※車移動速度は時速30kmとする。
 また、高速道路移動は考慮しない。

